九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[16]韓国研究センター年報

https://hdl.handle.net/2324/2004996

出版情報：韓国研究センター年報. 16, 2016-03-31. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

松原孝俊研究業績

１．著書

⑴ 『研究資料集成朝鮮神話』神田外語大学、1991年６月、625頁
⑵ 『釜山広域市立市民図書館所蔵・古書目録』釜山広域市立市民図書館、1995年４月、285頁
⑶ 『韓国書誌情報目録（日本語版）』私家版、2002年12月、238頁
⑷ 『韓国書誌に関する日本語情報目録』言語文化叢書６、九州大学言語文化研究院、2003年３月、376頁
⑸ 『在外日本関係資料調査及び研究論著目録』2003年12月、65頁
⑹ 松原孝俊編『國立台灣大學圖書館典藏日文善本解題圖録』台湾大学図書館、2009年12月

２．共著・共編著

⑴ 『朝鮮語を学ぼう』（菅野裕臣ほかと共編著）三修社、1987年10月、342頁
⑵ 『コスモス朝和辞典』（菅野裕臣ほかと共編著）白水社、1988年11月、1053頁
⑶ 『比較神話学の展望』（松村一男と共編）青土社、1995年12月、414頁
⑷ 『韓国入門 ― ことばと文化』（松原孝俊編）東方書店、1998年７月、285頁（改訂第２版、2002年５月、292頁）
⑸ 『グローバル時代の朝鮮通信使研究』（松原孝俊編）、花書院、2010年12月
⑹ 『Readings in Korean Studies ― 世界の次世代韓国研究のために』（申鎬・三阪一徳と共著）花書院、2013年７月、347頁
⑺ 『対馬宗家文庫史料：朝鮮訳官発給ハングル書簡調査報告書』（岸田文隆、金東哲ほか５名との共著）長崎県教育委員会、2015年３月、536頁
⑻ 『日韓が共有する近未来へ』（崔慶原と共著）本の泉社、2015年６月、251頁

３．報告書

⑴ 報告書『ソウル大学校中央図書館所蔵日本語古典籍目録』韓国及び中国に残置された日本語古典籍・日本史関係史料調査とその情報化に関する研究会、2000年３月、176頁
⑵ 中間報告書『台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本古典籍の書誌的研究』2001年３月、241頁
⑶ 報告書『台湾大学所蔵日本古典籍調査』2002年３月、376頁
⑷ 報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本古典籍の書誌的研究』2002年３月、736頁
⑸ 報告書『世界の中の韓国研究 ― 九州大学韓国研究センターの使命 ― 』2002年３月、114頁
⑹ 報告書『中国東北部における日本語資料 Network 化に関する基礎的研究』2004年３月、392頁
⑺ 報告書『東アジア所在日本語古典籍調査のデータベース構築のための国際会議』2004年３月、164頁
⑻ 報告書『ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として』2004年３月、199頁
⑼ 報告書『ソウル大学校中央図書館所蔵日本語古典籍目録　中間報告書』2004年３月、222頁

⑽　報告書『2003年度　韓国国際交流財団　研究成果報告書（「環日本海地域を研究する大学等研究機関Network化のための基礎的研究」・「韓国研究センターの成果と展望：1999～2003」）』2004年３月、279頁
⑾　中間報告書『緊急調査：20世紀を日本統治期朝鮮半島で生活した民衆のライフヒストリー調査』2005年３月、187頁
⑿　報告書『朝鮮本に関する書誌学的データベースの構築』2005年３月、第一分冊：118頁、第二分冊：524頁
⒀　報告書『韓国国際交流財団　2004年度共同研究助成　研究成果報告書』2005年３月、98頁
⒁　報告書『日韓学問共同体構築の試み ― 20世紀朝鮮半島民衆史の再構成』2005年３月、158頁
⒂　報告書『東アジア出版文化の研究 ― 学問領域として書誌・出版の研究を確立するために ― 』別冊５「朝鮮本に関する書誌学的データベースの構築」2005年３月、641頁
⒃　報告書『ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東独逸とポーランド西部旧ドイツ領を中心として ― 』2005年５月、178頁
⒄　日韓文化交流基金　2005年度日韓青少年・草の根交流事業　助成報告書『環太平洋韓国研究コンソーシアムを活用した日韓青少年によるオーラルヒストリー調査』2005年10月、160頁
⒅　報告書『緊急調査：20世紀を日本統治期朝鮮半島で生活した民衆のライフヒストリー調査（本冊上）』2006年３月、160頁
⒆　報告書『緊急調査：20世紀を日本統治期朝鮮半島で生活した民衆のライフヒストリー調査（本冊下）』2006年３月、210頁
⒇　2005年度サントリー文化財団研究助成研究成果報告書『ヨーロッパ所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的研究』2006年８月、250頁
(21)　『日韓海峡圏学生サミット実行委員会報告書』日韓文化交流基金：2006年度日韓青少年・草の根交流事業、国際交流基金：2006年度市民青少年交流プログラム、2006年12月、85頁
(22)　中間報告書『東アジアにおける日本語資料所在と現状に関する調査』本冊　上　2007年３月、158頁
(23)　中間報告書『東アジアにおける日本語資料所在と現状に関する調査』本冊　下　2007年３月
(24)　報告書『環太平洋韓国学コンソーシアムを活用した九州大学次世代韓国研究者育成プログラムの開発』平成18年度九州大学教育研究プログラム研究拠点プロジェクト（Ｃタイプ）、2007年３月
(25)　中間報告書『「昭和20年８月15日」植民地支配終焉と朝鮮解放の歴史像再構築 ― 民衆史の視点から』平成18年度科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）（一般）2007年３月
(26)　『スタンフォード大学フーバー研究所所蔵資料抄』（松原孝俊編）2007年３月、390頁
(27)　報告書『東アジアにおける日本語資料所在と現状に関する調査』平成19年度科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）（海外調査）2008年３月、192頁
(28)　報告書『在外日本語資料所在と現状に関する調査報告書』平成19年度科学研究補助金　基盤研究（B）2008年３月、190頁
(29)　研究成果中間報告書『「昭和20年８月15日」植民地支配終焉と朝鮮解放の歴史像再構築 ― 民衆史の視点から ― 』平成19年度科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）（一般）2008年３月、245頁
(30)　報告書『「昭和20年８月15日」植民地支配終焉と朝鮮解放の歴史像再構築 ― 民衆史の視点から ― 』平成20年度科学研究補助金　基盤研究（Ｂ）（一般）、2009年３月、162頁
(31)　平成20年度科学研究費報告書別冊『京城日本人世話会関連資料 ― 戦後在朝日本人の援護活動・引揚げ事業を中心に ― 』2009年３月、202頁

⑶② 報告書『ボストン美術館所蔵日本古典集成』平成22年度科学研究費、2011年３月、80頁
⑶③ 報告書『ボストン美術館所蔵日本古典集成』平成23年度科学研究費、2012年３月、154頁

４．論　文

（１のＡ）「海外の類型伝承」①（『講座　日本の神話』第１巻、ぎょうせい、106～122頁、1983年３月）
（１のＢ）「海外の類型伝承」②（『講座　日本の神話』第２巻、ぎょうせい、105～112頁、1983年４月）
（１のＣ）「海外の類型伝承」③（『講座　日本の神話』第３巻、ぎょうせい、87～96頁、1983年２月）
（１のＤ）「海外の類型伝承」④（『講座　日本の神話』第４巻、ぎょうせい、141～146頁、1983年５月）
⑵ 「朝鮮族譜と始祖伝承」（上）（『史淵』第120号、九州大学文学部、151～186頁、1983年３月）
⑶ 「朝鮮族譜と始祖伝承」（中）（『史淵』第121号、九州大学文学部、93～145頁、1984年３月）
（４のＡ）「妖怪トケビと人間のコミュニケーション」（『ユリイカ』1985年２月号、青土社刊、50～59）
（４のＢ）「妖怪トケビと人間のコミュニケーション」（『韓国・日本の説話研究』仁荷大学校出版部、270～284頁再録、1987年９月）
⑸ 「妖怪トケビ再考」（『浪速短期大学紀要』第10号、48～71頁、1985年３月）
⑹ 「三輪山説話と処容説話」（『日本研究 ― 言語と伝承』角川書店『89～105頁、1989年12月』
⑺ 「朝鮮における伝説生成のメカニズムについて…主に琉球王子漂着譚を中心として」（『朝鮮学報』137号、朝鮮学会、115～154頁、1991年10月）
⑻ 「比較説話学から見た『興夫伝』」（杉山書店『朝鮮文学論叢』大谷森繁博士還暦記念論叢、147～166頁、1992年２月）
（９のＡ）「神話学から見た『広開土王碑文』」（『朝鮮学報』145号、朝鮮学会、１～54頁、1992年10月）
（９のＢ）「神話学から見た『広開土王碑文』」（『韓国叙事文学史の研究』中央文化社、1995年５月、513～567頁に増補・転載）
⑽ 「朝鮮の『手無し娘』のふるさと」（『口承文芸研究』第16号、日本口承文芸学会、13～28頁、1993年３月）
⑾ 「日本人学習者に必要な辞典記述」（韓・日国際学術会議『外国語教育の再定立』忠南大学校、1993年10月）
⑿ 「朝鮮の『炭焼長者』系説話の比較研究序説」（『口承文芸研究』第17号、日本口承文芸学会、39～52頁、1994年３月）
⒀ 「韓国語教育における基本語彙の一試案」（金延宣・申忠均・趙眞景と共著）（『21世紀の外国語教育の展望』九州大学言語文化部、89～99頁、1994年10月）
⒁ 「姜南周の詩的世界」（『言文論究』第６号、九州大学言語文化部、159～167頁、1995年３月）（『詩文学』第25巻第11号、1995年11月号、115～127頁に転載）
⒂ 「牟頭婁墓誌の神話学的研究」『日本古代の伝承と東アジア』吉川弘文館、205～247頁、1995年３月
⒃ 「失われた高句麗神話の世界」『比較神話学の展望』青土社、1995年12月、178～203頁
⒄ 「朝鮮食文化研究の基礎資料としての古歳時記」『助成研究の報告』第５号、（財）味の素食の文化センター、67～71頁、1995年11月
⒅ 「『東国歳時記』の著者洪錫謨について」『言文論究』第６号、九州大学言語文化部、63～71頁、1996年３月
⒆ 「在日韓国人・朝鮮人の文化変容 ― 特に九州における済州島人の祖先祭祀と民俗宗教の変容を中心として」（玄丞桓と共著）『比較社会文化』第２号、九州大学大学院比較社会文化研究科、163～175頁、1996年３月
⒇ 「コンピュータ画像処理により可読された『牟頭婁墓誌』釈文に関する研究」『平成７年度年報』福武学術文

化振興財団、1996年11月、67〜76頁
⑵ 「朝鮮神話研究の最前線 ― 檀君神話を中心として」『ユリイカ』1997年２月号、97〜101頁
⑵ 「雨森芳洲と対馬藩「韓語司」の設立経緯をめぐって」（趙眞璟との共著）『日本論集』第９号、韓国・中央大学校日本学研究所、1997年２月、31〜55頁
⑶ 「雨森芳洲と対馬藩「韓語司」における学校運営をめぐって」（趙眞璟との共著）『比較社会文化』第３巻、九州大学大学院比較社会文化研究科、1997年３月、149〜159頁
⑷ 「雨森芳洲と対馬藩『韓語司』での教育評価について」（趙眞璟との共著）『言語科学』第32号、九州大学言語文化部、1997年３月、105〜122頁
⑸ 「厳原語学所と釜山草梁語学所の設立と廃止をめぐって」（趙眞璟との共著）『言文論究』第８号、九州大学言語文化部、1997年３月、47〜59頁
⑹ 「琉球の朝鮮語通詞と朝鮮の琉球語通詞」『歴代宝案研究』第８号、沖縄県立図書館史料編纂室、1997年３月、33〜55頁
⑺ 「『淑香伝』形成年代再考」（曹喜雄との共著）『古典文学研究』第12輯、1997年３月、115〜151頁
⑻ 「朝鮮から琉球へ、琉球から朝鮮への漂流年表」（小林茂・六反田豊との共著）『歴代宝案研究』第９号、沖縄県立図書館史料室、1998年３月、73〜136頁
⑼ 「韓国のイエンニヤギ」『国文学』1999年12月号、12〜19頁
⑽ 「釜山市立図書館略史（1910年〜1938年を中心に）」『韓国言語文化研究』第２号、2002年４月、１〜27頁
⑾ 「考古学と朝鮮神話研究」『韓半島考古学論叢』2002年、609〜619頁
⑿ 「南の島の朝鮮語通詞 ― 石垣島の事例」『国文学』第48巻12号、2003年10月、65〜73頁
⒀ 「日本最初の外国語学校「対馬藩『韓語司』」」嶋村初吉編著『対馬新考』梓書院、2004年12月、149〜176頁
⒁ 「スタンフォード大学フーバー研究所所蔵　日本関係資料目録」有馬学、中野等『九州大学　21世紀 COE プログラム（人文科学）東アジアと日本 ― 交流と変容 ― 第２号』2005年２月、81〜150頁
⒂ 「朝鮮半島の神話」『世界神話事典』角川選書375、2005年３月10日、333〜341頁
⒃ 「朝鮮本書誌学的データベース構築のために」『韓国言語文化研究』第８号、2005年３月、１〜23頁
⒄ Takatoshi Matsubara・Ho Shin・Chad Waker・SangJinChoi・Michihiko Shinjo「Korea-Japan Joint Exploratory Study of Colonial Korea: Interview Study and Urban Field Survey of Gunsan（群山），Korea」『韓国言語文化研究』第13号、2006年12月、25〜40頁
⒅ 「植民地期在住日本人に関する『ネットワーク』調査」『平成18年度科研費報告書』（代表：石川捷治）、５〜197頁、2006年３月
⒆ 「グローバル時代の韓国舞踏 ― 崔承喜論」『ウリチュム研究』第４号、2007年、171頁〜221頁
⒇ 「群山永和洞（旧大和町、旭町）土地台帳調査」『韓国言語文化研究』第15号、2008年、１〜54頁
(21) 「植民地空間京城の『駱駝山房書屋主』藤田良策」『韓国言語文化研究』第16号、2008年、１〜18頁
(22) 「『敗戦国ニッポン』に帰りたくなかった日本人」『平成20年度科学研究補助金報告書』2009年３月、45頁〜71頁
(23) 「国籍と法的地位：敗戦国ニッポンに帰りたくなかった日本人」ソウル大学校奎章閣韓国研究センター主催ワークショップ・プロシーディング、2009年、29〜37頁
(24) 「日本における韓国研究の現状と展望」『世界における韓国研究の現状と展望』2009年11月、25〜39頁
(25) 「『帝国』日本を舞う」『高麗大学校日本研究センター』ワークショップ・プロシーディング、2009年、１〜

38頁
⑷⑹ 「朝鮮を囲む四つのボーダー【華夷秩序と西洋型国際秩序】」『別冊　環⑲　日本の「国境問題」現場から考える』藤原書店、2012年、162～178頁
⑷⑺ 「朝鮮半島の神話」『世界神話事典　世界の神々の誕生』、角川文庫、2014年、37頁～48頁
⑷⑻ 「筆談唱和に『旧法あり』― 草場珮川著『津島日記』を中心に ―」『韓国言語文化研究』第21号、1～11頁、2015年

５．総説

⑴ 「埋もれた神話の復権」『フォーク・ロア』第４号、(ジャパンパブリッシャー刊、135～138頁、1978年４月)
（２のＡ）「天降神話の構造と論理」（その１）(『上代文学研究』第４号、24～37頁1978年12月号)
（２のＢ）「天降神話の構造と論理」（その２）(『上代文学研究』第５号、21～28頁)、1979年12月号)
⑶ 「出雲大社」「巨人伝説」「洪水神話」「シバ」「シャマニズム」「神話」「神話学」「太陽の神話」「月の信仰と神話」「天地創造神話」「日食と信仰」「火」「ビシュヌ」「北欧神話」(『現代百科事典』ぎょうせい刊、1981年４月)
⑷ 「朝鮮への漂流と琉球への漂流」(『ミュージアム九州』第15号、博物館建設推進九州会議、54～58頁、1984年12月号)
⑸ 「韓国説話学界の動向」『説話伝承学会誌』第３号、説話伝承学会、205～213頁、1985年４月)
⑹ 「生き続ける民族芸能」(『世界の地理』韓国編、1985年４月号、朝日新聞社刊、194～196頁)
⑺ 「姓・本貫・族譜」(『基礎ハングル』三修社、1985年12月号、33～35頁)
⑻ 「姓と名」(『NHK ラジオ　ハングル講座テキスト』日本放送出版協会、1986年１月号、68～70頁)
⑼ 「朝鮮族譜に現れた系譜観とその変質過程」(『第１回 Korea 学会研究報告』Korea 学会、76～81頁、1986年２月)
⑽ 「説話と思想」(『説話伝承学会誌』第４号、説話伝承学会、66～81頁および96～116頁、1987年４月)
⑾ 「書評　神話の世界」(吉田敦彦・松村一男共著、有斐閣刊)(『日本文化会議』1987年11月号、37～39頁)
⑿ 「朝鮮における『人間と動物』譚」(『口承文芸研究』第13号、日本口承文芸学会、９～21頁、1990年３月)
⒀ 「『失郷民』の地図」(『現代コリア』1990年11月号)
⒁ 「『朝鮮書物同好会報』について」『神田外語大学図書館便り』第１号、２頁、1991年12月
⒂ 「東アジアにおける『文化の流れ』について」『神田外語大学日本研究所通信』第１号、５～６頁、1993年３月
⒃ 「韓国文学」『世界の歴史・韓国』(金両基ほかと共著) 新潮社、239～253頁、1993年５月
⒄ 「訳注『中国小説類の韓来記事』(李能雨・著)」『言語文化論究』第５号、九州大学言語文化部、167頁～187頁、1994年３月
⒅ 「21世紀型の文化交流を考える 」『韓日海峡圏未来フォーラム』釜山発展研究院、62～65頁、1994年10月
⒆ 「蝦夷に漂着した朝鮮人」『九州歴史』58号、九州歴史大学、12～14頁、1995年５月
⒇ 「韓国における沖縄研究の動向」(『沖縄の歴史情報』ニューズレター、第５号、10～11頁、1995年７月)
㉑ 「食文化を通して日本・韓国・世界を探る」『さいぶ』407号、西部ガス、30～31頁、1996年４月
㉒ 「雨森芳洲の外国語教授法について」『中央大学校日本研究所国際学術発表会要旨集』中央大学校日本研究所、９～11頁、1996年６月

⑵③ 「命を五年縮候 ― 雨森芳洲と田川孝三博士」『RADIX』第11号、九州大学全学共通教育広報、1997年１月、４～５頁
⑵④ 「朝鮮から琉球へ、琉球から朝鮮への漂流年表」（小林茂との共著）『漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成８年度科学研究費報告書、1997年３月、67～94頁
⑵⑤ 「『憲章姓家譜』解読及び解題」（豊見山和行との共著）『漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成８年度科学研究費報告書、1997年３月、25～53頁
⑵⑥ 「松原新右衛門『朝鮮物語』解読及び解題」（木部和昭との共著）漂流・漂着からみた環東シナ海の国際交流』平成８年度科学研究費報告書、1997年３月、55～101頁
⑵⑦ 「韓国語圏のウェッブページ」『言文フォーラム』第16号、1997年３月、10頁
⑵⑧ 「書評：稲田浩二『昔話の源流』」『口承文芸研究』第21号、1998年３月、156～162頁
⑵⑨ 「物語以前・物語の誕生・物語の変容」『口承文芸研究』第22号、日本口承文芸学会、1999年３月
⑶⓪ 『座談会：ソウル大学所蔵合巻を中心に』『国文学』第46巻７号、2001年６月、６～27頁
⑶① 「21世紀ハ韓日文化競争時代 ― 日本カラ見タ韓国」韓国国際交流財団編『韓国ト世界ノ出会イ』（韓文）2002年７月、34～61頁
⑶② 「日韓文化交流は、着実に、絶えることなく」（報告書『韓国国際交流財団　2004年度コロキウム開催助成金事業成果報告書』2005年３月
⑶③ 「領土権をめぐるマスコミ報道」『機』藤原書店、2012年10月15日

６．翻訳

⑴ 『韓国の民俗文化財』第１巻…民俗芸能篇、韓国文化財管理局、監訳担当、岩崎美術社刊、333頁、1989年９月
⑵ 『韓国民間伝説集』その１（崔常壽著　通文館刊、1947年初版、1983年再版））、私家版、1991年
⑶ 訳註「中国小説類の韓来記事」（李能雨・原著）『言語文化論究№５』九州大学言語文化部、1994年３月
⑷ 「韓国南海諸島の説話の位相」（姜南周・著）『比較民俗学会報』第15巻第１号、20～22頁、1994年５月
⑸ 詩「行ってみたい狩猟時代」ほか３編『釜山詩人たちの詩』海園出版社、11～21頁、1996年４月
⑹ 「朝鮮時代後期の漂民の送還を通してみた朝鮮・琉球関係」（李薫・著）金明美・共訳、『歴代宝案研究』第８号、沖縄県立図書館史料編纂室、1997年３月、１～32頁
⑺ 「1945年以前の吉林省朝鮮族学校」（李錫琪著『吉林省志』巻三十七／教育志第十章）金珽実訳、監修、『韓国言語文化研究』第２号、九州大学韓国言語文化研究会、2002年４月、47～64頁
⑻ 「国語発達史」（朴炳采『国語発達史』1989年、世英社）石橋道秀訳監修、『韓国言語文化研究』第７号、九州大学韓国言語文化研究会、2004年７月
⑼ 「東アジアにおける自然と文学を考える」（高銀著）山里勝巳他編『国際シンポジウム沖縄2003　自然と文学のダイアローグ』彩流社、2004年９月、129～134頁
⑽ 「朝鮮古典籍の形態」（尹炳泰著）新城道彦訳監修、『韓国言語文化研究第８号』、九州大学韓国言語文化研究会、2005年３月、24～84頁

７．研究調査

⑴ 『韓国文化を考える』神田外語大学韓国語学科教材、402頁、1991年６月

⑵ 『朝鮮語における関連表現の調査報告』神田外語大学韓国語学科、228頁、1992年４月
⑶ 『韓国の沖縄関係資料（1)』文部省科学研究費重点領域「沖縄の歴史情報」研究報告書（課題番号07205203）355頁、1995年３月
⑷ 『馬渡住宅の壁書きに関する報告書』大牟田市地域振興課、24頁、1995年３月
⑸ 「『牟頭婁墓誌』墨書銘の画像処理に関する報告書」福武学術文化振興財団平成六年度報告、13頁、1996年６月
⑹ 『朝鮮史料の中の琉球沖縄関係資料情報』文部省科学研究費重点領域「沖縄の歴史情報」研究報告書（課題番号07205203)、1998年５月
⑺ 「ソウル大学校中央図書館所蔵日本語古典籍目録」報告書『韓国及び中国に残置された日本語古典籍・日本史関係史料調査とその情報化に関する基礎的研究』、2000年３月、１～176頁
⑻ 「ソウル大学中央図書館所蔵貴重本リスト」中間報告書『台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2001年３月、115～116頁
⑼ 「大邱・釜山市立図書館貴重本リスト」中間報告書『台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2001年３月、117頁
⑽ 「遼寧省図書館所蔵日本語古典籍目録」中間報告書『台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2001年３月、118～241頁
⑾ 「中国遼寧省立図書館蔵朝鮮古籍書目」『言語文化論究』第14号、2001年７月、263～287頁
⑿ 「台湾大学総図書館所蔵日本典籍目録」報告書『台湾大学所蔵日本古典籍調査』、2002年３月、113～376頁
⒀ 「大韓民国国立中央図書館所蔵日本典籍目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、181～674頁
⒁ 「釜山広域市立市民図書館日本古書目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、675～716頁
⒂ 「慶北大学図書館所蔵日本古典籍目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、717頁
⒃ 「東北師範大学図書館所蔵日本典籍目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、718～729頁
⒄ 「遼寧省図書館所蔵日本古典籍目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、730～734頁
⒅ 吉林省図書館所蔵日本古典籍目録」報告書『台湾・朝鮮・満洲に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究』、2002年３月、735～736頁
⒆ 「大邱広域市立中央図書館所蔵日本古典籍目録」『韓国言語文化研究』第２号、九州大学韓国言語文化研究会、2002年４月、65～80頁
⒇ 「黒龍江大学図書館所蔵日本古典籍目録」報告書『中国東北部における日本語資料 Network 化に関する基礎的研究』2004年３月、340～341頁
㉑ 「遼寧省図書館所蔵日本古典籍目録」報告書『中国東北部における日本語資料 Network 化に関する基礎的研究』2004年３月、342～392頁
㉒ 「ドイツ国内所蔵別日本古典籍目録」報告書『ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として』2004年３月、105～186頁

㉓ 「ソウル大学校中央図書館所蔵日本語古典籍目録（貴重本・普通本・草双紙）」報告書『ソウル大学校中央図書館所蔵日本語古典籍目録　中間報告書』2004年３月、222頁
㉔ 「植民地期、日本人によって書かれた韓半島関連の文献目録」『20世紀と日韓民衆ネットワーク ― 植民地期在韓日本人の追跡調査 ―』九州大学韓国研究センター調査中間報告書、2003年５月
㉕ 「朝鮮本活字に関する書誌目録」『韓国言語文化研究』第８号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年３月、85～112頁
㉖ 「木浦に関する写真記録」中間報告書『緊急調査：20世紀を日本統治期朝鮮半島で生活した民衆のライフヒストリー調査』2005年３月、151～187頁
㉗ 「Kupferstich－Kabinett, Staatliche Kunstammlungen Dresden 所蔵　印刷物についての目録」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、３～60頁
㉘ 「Kupferstich－Kabinett, Staatliche Kunstammlungen Dresden 所蔵　浮世絵作者別点数」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、61頁
㉙ 「Kupferstich－Kabinett, Staatliche Kunstammlungen Dresden 所蔵　和本調査目録」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、62～69頁
㉚ 「ドイツ語圏所蔵別日本典籍目録」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、71～168頁
㉛ 「ドイツ語圏における日本関係資料調査及び研究論著目録」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、169～177頁
㉜ 「ソフィア国立海外美術館所蔵日本関係資料目録」「ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究 ― 旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として ―」2005年５月、178頁
㉝ 「稲葉岩吉（君山）著作関係目録」『韓国言語文化研究』第９号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年６月、３～16頁
㉞ 「駝駱山房（藤田亮策旧蔵）書誌目録の復元リスト」『韓国言語文化研究』第９号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年６月、17～21頁
㉟ 「日本人による上海研究リスト」『韓国言語文化研究』第９号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年６月、23～32頁
㊱ 「戦後に書かれた植民地期朝鮮半島に関する回想記リスト」『韓国言語文化研究』第９号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年６月、33～75頁
㊲ 「朝鮮半島に関する1945年以前の紀行・随筆目録」『韓国言語文化研究』第９号、九州大学韓国言語文化研究会、2005年６月、77～116頁
㊳ 「篠田治策文書目録」『九州大学 COE 報告書』、2007年３月、83～109頁
㊴ 対馬市厳原町・醸泉院における史料調査 ― 松原孝俊・崔相振・山口華代『韓国言語文化研究』14号、2007年12月

８．口頭発表（過去の主な口頭発表のみ）

⑴ 「韓国の「話千両」をめぐって ― 曺喜雄市の論文の紹介を中心にして」比較民話研究会　月例会、1985年７月22日

⑵ 「環日本海における説話」日本口承文芸学会大会、1989年６月（山形県南陽市）

⑶ 「朝鮮古歳時記の資料について」朝鮮学会大会　1989年10月（奈良県天理市）

⑷ 「朝鮮族譜の始祖関係記事について」中華民国アジア族譜学会　1989年12月（中華民国台北市）

⑸ 「『手無し娘』のふるさとは…朝鮮半島とグリム童話」日本口承文芸学会研究例会、1990年３月（東京都）

⑹ 「伝説規制のメカニズムに関する一考察 ― 琉球王子漂着譚を中心として」朝鮮文学研究会　1990年５月12日

⑺ 「韓国の歴史と文化」千葉市民大学　1990年９月21・28日

⑻ 「東国歳時記の成立に対して」韓国民俗学会第19回全国大会　1990年10月（大韓民国ソウル市）

⑼ 「二、三の朝鮮古小説に対する疑問点について」朝鮮文学研究会月例会1991年10月（東京都）

⑽ 「東アジアの説話研究」日本比較民俗学会、1993年９月（神奈川県）

⑾ 「アジアの説話の比較」日・中・韓国際民俗学会議1993年10月18日（大韓民国ソウル市）

⑿ 「日本人学習者に必要な辞典記述」韓・日国際学術会議『外国語教育の再定立』1993年10月（韓国・大田市）

⒀ 「韓国語のおもしろさ」西日本日韓民俗文化懇話会　1994年５月14日

⒁ 「21世紀型の文化交流を考える」『韓日海峡圏未来フォーラム』釜山発展研究院、1994年10月（韓国・釜山市）

⒂ 「韓国における沖縄研究と琉球資料」重点領域研究『沖縄の歴史情報』全体会議・シンポジウム、1995年７月

⒃ 「韓国における琉球関係史料と歴代宝案」沖縄県歴代宝案編集調査委員会、1995年11月

⒄ 「朝鮮半島の食文化を考える」九州大学平成７年度公開講座「アジアと日本」、1995年10月21日

⒅ 「雨森芳洲の外国語教授法について」『中央大学校日本研究所国際学術発表会』中央大学校日本研究所、1996年６月22日

⒆ シンポジウム「東アジアの漂流民をめぐる諸問題」文部省科学研究費重点領域研究『沖縄の歴史情報研究』研究会、岡山県牛窓町、1996年11月16日

⒇ 「琉球の朝鮮語通詞に関する一考察」朝鮮学会研究大会、1997年10月

(21) 『韓国民話と東アジア～主にグリム童話との関連を中心として～』平成10年度アジア学講座「アジアに伝わる民話とその背景」1998年３月18日（福岡市）

(22) 「東アジアの文化交流」読売新聞社・韓国日報共同主催、2000年11月23日

(23) 『シンポジウム民間説話を中心に』「東アジアにおける文化交流」国立歴史民俗博物館、2001年１月31日

(24) 「台湾・朝鮮・中国に残置された和本の所在情報」文部省特定領域研究「東アジア出版文化の研究」第１回研究集会、2001年６月17日

(25) 「韓国における日本関係資料に関する研究状況」ドイツ語圏日本学研究大会（於ボン大学）、2002年９月30日

(26) 「日本人の韓国イメージー主に前近代を中心として」韓国全北大学校博物館文化講演会、2004年５月24日

(27) シンポジウム「21世紀は、日韓大衆文化競争時代」『東亜大学校東北アジア大学校北アジア国際大学院国際学術セミナー：21世紀東北アジアの同伴者：韓国と日本：社会・文化的統合は可能か』東亜大学校東北アジア国際大学院、2004年５月28日

(28) 九州大学韓国研究センターの現在と未来（韓文）」『東北亜地域　研究所間　協力増進』仁済大学校人文社会科学大学人文社会科学研究所、2004年12月10日

⑵⑼ 「「Life History とは？：日本統治期朝鮮半島に居住した日本人の証言」『九州大学・全北大学校　国際学術ワークショップ2004』日時：2004年12月14日（火）　場所：九州大学国際ホール

⑵⑽ 「外国語教育のための遠隔講義システムの技術的課題」『マルチメディア、分散、協調とモバイル（DICOMO 2004）シンポジウム』平成16年７月　後藤幸功、荒木啓二郎との共同発表

⑵⑾ 「愛の聖地巡礼、春川 ― 韓流ブームと日韓関係」「国際宮崎研究シンポジウム「宮崎から国際社会を考える」2005年11月20日（日）　於：宮崎公立大学地域研究センター

⑵⑿ 「グローバル時代の韓国舞踏」『第４集 Institutee of Korean Traditional Dance』2007年６月７日　漢陽大学校ウリチュム研究所研究会

⑵⒀ 「植民地空間京城の博物学者・藤田亮策 ―「『朝鮮』は『朝鮮』だよ」― 2007年６月22日　ソウル大学奎章閣韓国学研究所シンポジウム　韓日国際ワークショップ『帝国の「学知」と京城帝大の教授たち』

⑵⒁ 「Colonial Legacy and Repatriated Japanese」― 2009年３月27日　Hidden history after August 15 Colonial legacy and Repatriated Japanese 於 The Center for Korean Studies of the University of Hawaii at Manoa

⑵⒂ 「国籍と法的地位：敗戦国ニッポンに帰りたくなかった日本人」ソウル大学校奎章閣韓国研究センター主催ワークショップ・プロシーディング、2009年５月２日

⑵⒃ 「崔承喜・帝国日本で舞う」高麗大学校日本研究センター主催研究会配付資料、2009年５月６日

⑵⒄ 「日韓地域連携による共通課題解決への挑戦」日本学術振興会・アジア研究者ネットワーク2009年、於：韓国釜山市新羅大学校、2009年７月４日

⑵⒅ 講演会「ボストンに渡った和本 ― 日本の美に魅せられた３人のアメリカ人と岡倉天心 ― 」中野三敏、ロバート・キャンベルと共に、2014年３月17日、アクロス福岡３Ｆこくさいひろば

９．朝鮮語教育

［１］共著・共編著

⑴ 『韓国語講座Ⅰ－発音篇』（金延宣と共著）ハヤンセム社、110頁、1994年３月

⑵ 『入門韓国語』（金延宣と共著）東方書店、161頁、1995年３月

⑶ 『韓国語講座Ⅱ－講読篇』（黄聖媛と共著）櫂歌書房、135頁、1995年４月

⑷ 『入門韓国語－会話編』（金延宣と共著）花書院、102頁、1996年６月

⑸ 『初級韓国語－購読編』（黄聖媛と共著）花書院、180頁、1997年５月

⑹ 『入門韓国語』（金延宣・黄聖媛と共著）東方書店、142頁、1999年

⑺ 『入門韓国語－購読編』（韓国語へのアクセスシリーズ①）（金鏞熙・黄聖媛・申鎬と共著）花書院、145頁、2001年４月

⑻ 『入門韓国語－速習編』（韓国語へのアクセスシリーズ②）（申鎬と共著）花書院、117頁、2001年４月

⑼ 『入門韓国語－文法・ドリル編』（韓国語へのアクセスシリーズ③）（金英姫と共著）花書院、109頁、2001年４月

⑽ 『入門韓国語－会話編』（韓国語へのアクセスシリーズ①）（金鏞熙・黄聖媛・申鎬と共著）花書院、91頁、2002年４月

⑾ 『入門韓国語－表現編　改訂版』（韓国語へのアクセスシリーズ⑤）（西野玄と共著）180頁、2004年３月

⑿ 『入門韓国語－表現編　韓国語練習帳　ワンフレーズで覚えよう』（韓国語へのアクセスシリーズ⑤）（西野玄と共著）211頁、2004年３月

⒀ 『コリア語Ⅰ　基礎編』（韓国語へのアクセスシリーズ⑥）（李昌訓との共著）98頁、2004年３月
⒁ 『コリア語Ⅱ　応用編』（韓国語へのアクセスシリーズ⑦）（李昌訓との共著）119頁、2004年３月

［２］単著
⑴ 「反切表」（『基礎ハングル』三修社、1986年５月号、18～19頁）
⑵ 「字母の名称」（『基礎ハングル』三修社、1986年６月号、６～７頁）
⑶ 「疑問形と疑問詞」（『基礎ハングル』三修社、1986年７月号、12～13頁）
⑷ 「接尾辞ケッ」（『基礎ハングル』三修社、1986年８月号、６～７頁）
⑸ 「過去形…母音語幹」（『基礎ハングル』三修社、1986年９月号、15～16頁）
⑹ 「形容詞の連体形」（『基礎ハングル』三修社、1986年10月号、13～15頁）
⑺ 「動詞の連体形」（『基礎ハングル』三修社、1986年11月号、10～11頁）
⑻ 「いろいろな連体形を含む形を学ぶ」（『基礎ハングル』三修社、1986年12月号、16～17頁）
⑼ 「親しさの上称形」（『基礎ハングル』三修社、1987年１月号、４～８頁）
⑽ 「文中の疑問形」（『基礎ハングル』三修社、1987年２月号、23～25頁）
⑾ 『接尾辞ケを持つ形容名詞を学ぶ』（『基礎ハングル』三修社、1987年２月号、12～13頁）
⑿ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1992年10月号、56～71頁
⒀ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1992年11月号、56～71頁
⒁ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1992年12月号、66～81頁
⒂ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1993年１月号、48～63頁
⒃ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1993年２月号、48～63頁
⒄ 『NHK ラジオ　アンニョンハシムニカ　ハングル講座テキスト』応用編、日本放送出版協会、1993年３月号、48～75頁

10. その他〔新聞記事掲載・テレビ報道等〕
⑴ ホリデーにっぽん「戦後54年　公開された和書～旧京城敵国大学の遺産～」NHK、1999年３月22日オンエア
⑵ 「朝鮮半島、台湾、満州…植民地時代の日本語古典籍を追う」西日本新聞、2001年10月９日
⑶ 「台湾所在の日本関係資料研究会に寄せて（下）」琉球新報、2001年12月14日
⑷ 「昔斗掛　醗遂　廃厩俳　溌舌　蟹竺凶」疑焼析左、2001年12月14日
⑸ 「台湾日本関係資料研究会への誘い ― 調査と整理保存が急務」沖縄タイムス、2001年12月15日
⑹ 「研究成果を共有へ／台湾所在の日本関係資料」琉球新報、2001年12月16日
⑺ 「対馬藩通訳官の私文書百数十点」西日本新聞、2002年１月５日
⑻ 「全容を現した旧台北帝大蔵書 ― 琉球、西鶴、歌舞伎…多彩な日本語古典籍」西日本新聞、2002年１月19日
⑼ 「朝鮮　18世紀に小説木板本／対馬で年号入り写本発見」夕刊読売新聞、2002年２月14日

⑽ 「姿見えた台湾の「残置本」― 歴史に埋もれた日本語書籍の目録作り」日本経済新聞、2002年２月14日
⑾ 「文化の FTA 現象／交流安定期迎える」西日本新聞、2002年５月17日
⑿ 「共催は歴史認識の差を超越できる」毎日新聞、2002年７月１日
⒀ 「ロシア・ドイツに在外和古書を訪ねて」朝日新聞、2002年４月13日
⒁ 「息づく朝鮮通信使〈１〉対馬藩小田幾五郎」長崎新聞、2002年８月３日
⒂ 「息づく朝鮮通信使〈２〉雨森芳洲」長崎新聞、2002年８月４日
⒃ 「息づく朝鮮通信使〈３〉現代の韓語司」長崎新聞、2002年８月５日
⒄ 「息づく朝鮮通信使〈４〉行列振興会」長崎新聞、2002年８月６日
⒅ 「息づく朝鮮通信使〈５〉「チング」が咲かせた花　寄稿・松原孝俊氏」長崎新聞、2002年８月７日
⒆ 「近世和古書、ドイツに集積」朝日新聞、2002年11月９日
⒇ 「夢は、東アジア日本古典籍データベースの構築」『CROSSOVER』第14号、九州大学大学院比較社会文化学府、2002年12月、６～８頁
㉑ 「欧州流出の日本美術資料一堂に」読売新聞、2003年９月７日
㉒ 「在外日本古文献調査団報告」読売新聞（夕刊）、2003年12月26日
㉓ 「勝村哲也先生を偲ぶ」『界隈』島根県立大学メディアセンター報、vol.14、2004年２月
㉔ 「来年韓日のキーワードは「市民の交流」に」『釜山日報』2004年12月13日（韓文）
㉕ 「いつか見たような…韓国　50年代からの変容　撮影　あすから福岡で写真展」朝日新聞2005年１月12日
㉖ 「日韓はヨン様架け橋　九大講義定員の３倍」西日本新聞、2005年４月14日
㉗ 「冬ソナ講義盛況」毎日新聞、2005年４月14日
㉘ 「ドイツ古書調査報告」読売新聞、2005年４月15日
㉙ 「古書探索　欧州の旅　政信の『絵本鶴之嘴』発見」読売新聞、2005年４月19日
㉚ 「韓流ブーム福岡席巻　大衆文化の融合進む」毎日新聞、2005年４月23日
㉛ 「韓流ブームは、女性たちの反乱？」リビング北九州、2005年８月20日
㉜ 「余響　ちんぐ」読売新聞夕刊、2006年７月19日
㉝ 「国を巻き込み議論を」朝日新聞、週間九州 ― 釜山・九州経済圏を構想 ―、2008年１月11日
㉞ 「韓国併合前の外交電文下書き　伊藤博文の直筆発見」西日本新聞、2010年８月31日
㉟ 「日韓科学者の研究拠点」日本経済新聞、2013年６月20日
㊱ 「和本２万冊、米で発見、北斎漫画、歌麿の絵入り本、ボストン美術館に眠る」西日本新聞、2014年１月１日
㊲ 「米ボストン美術館に和本２万冊　ほぼ手つかずで保管」朝日新聞、2014年１月５日
㊳ 「草双紙、未知の21冊　九大チームがハワイで発見」西日本新聞、2014年２月21日